

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 養老町立広幡小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫）  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒503-1323  
岐阜県養老郡養老町口ヶ島196-2

E-mail c30324@mx.gifu-net.ed.jp

Website http://es-hirohata.yoro-edu.jp/html/htdocs/index

幼児児童生徒数 男子53名 女子38名 合計91名  
幼児・児童・生徒の年齢7歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1, 2-1に対応

広幡小学校は、学校の教育目標「豊かな心をもち、たくましく生きる子」を掲げ、「夢をもって前へ」を校風とし、教育活動を行っている。

全校で自分たちの住んでいる広幡地域の、①歴史や伝統文化、②自然や環境、③地域に住む人についての理解を深めるとともに、自分たちにできることは何かを考えていく学習を進めている。

### ① 伝統文化に係わる活動

#### 【2年生】

「ぼく・わたしの町自慢」と題して、公民館長さんや区長さん方をはじめ、地域の方にインタビューをし、地域の伝統行事に参加し地域の方とともに活動したりする中で、地域の方と深く関わることができた。

### 【3年生】

「ふるさと広幡」と題して、「地域に住む人」とのつながりに重点をおいて活動を進めた。公民館活動に参加をし、地域の方と一緒に活動したり、インタビューしたりする中で地域の方とコミュニケーションを深めた。

### 【4年生】

「広幡地域と水のかかわり」と題して、輪中地区である校区の特色を「水」をテーマにして、現在の生活や産業の関わりで調査をし、まとめた。さらに、それを発展させ、先人と水との戦いについても、調べまとめた。

### 【6年生】

「ふるさと広幡の歴史に学ぶ」と題して、地域の偉人である国学者・田中道麿翁について調べ、自らの生き方を振り返った。その過程で、一人一人の思いを俳句に詠み地域の方に発表する学習も行った。さらにそれを発展させ、地域の歴史について調べ、まとめた。

### 【全校】

「広幡ふるさとオリエンテーリング」として、地域の史跡巡りを行った。3年で校区が全て回れるように計画をしており、今回は、大跡・ロヶ島地区、それを縦割り班で回った。各学年が、自分たちのポイントを決め、それぞれで説明をする活動を行う中で、ふるさと広幡への理解を深めた。

## ② 環境に係わる活動

### 【1年生】

「広幡の自然となかよし」と題して、「地域の自然」を生かした遊びを工夫したり、こども園児と交流したりした。

### 【5年生】

「広幡の自然に学ぶ」と題して、広幡地区に生息し、絶滅危惧種である「ハリヨ」について、調べまとめた。その後、それを広げる形で、水生生物や水質について調査し、広幡地区の自然を守るためにはどうするかを提言の形でまとめた。

### 【全校 ピカリーン活動】

自分たちが住んでいる地域を、自分たちできれいにしようと環境美化委員会が呼びかけ、活動した。神社や公園、公民館のまわりなど、活動する場所、取組内容を決めた。地域の方にも手伝っていただけるように、自分たちでお願いの手紙も区長さんに渡し、一緒に住んでいる地区の神社の周りや公園の草取り、落ち葉拾いをした。

### 【全校 ESD パスポートを活用したボランティア】

人権福祉委員会の提案で、全校にボランティア活動を呼びかけた。休み時間や放課後の時間を使って、進んでボランティア活動を行う姿がみられた。低学年は、教室や廊下のごみを、ほうきではいたり、雑巾で拭いたりした。また、水筒や雑巾を整理・整頓するなど、自分たちで考えて身の回りのみんなが使うところや使う物をきれいにした。高学年は、花壇の草取りや図書室の本を整頓したり、朝、校門に立ってみんなに挨拶をしたりするなど、全校のために働く姿があった。

### ③ 国際理解に係わる教育

#### 【全校】

モンゴルに持っていく物資を集めた。人権福祉委員会が中心となり、モンゴルの様子を全校に知らせ、モンゴルに対する理解を深めるとともに、援助の意味を考えた。



①地域の方にインタビュー



②ハリヨ調べ



③ビリゴさんに送る物を渡す様子



③物資が届いた様子

### ① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	□ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解, 文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	□ 8. 人権・平和
□ 9. 健康・福祉	□ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他( )		

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

■ 1. 教科の時間	■ 2. 総合的な学習の時間
■ 3. 特別活動等	□ 4. クラブ活動
■ 5. その他(自由記述 休み時間)	

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- 生活科、総合的な学習の時間を中心に「ふるさと学習」のテーマを設定し、地域の自然や人とのつながりを大切にした学習内容を明確にした。
- 地域の方や保護者とのかかわりを指導計画に位置付けた。
- 「ふるさと学習」で学習したことを発表する場「広幡ふるさとオリエンテーリング」を計画（３年サイクルで校区を一巡）に位置付け、地域にも広めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- 「ふるさと学習」を地域の方に協力してもらえるように学校運営協議会で協力を願ったり、通信で広く知ってもらうようにしたりしている。
- ピカリーン活動や国際ボランティア交流は、児童の委員会活動として位置付け、継続的かつ自主的に取り組んだ。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- 学期に１回の保護者アンケートや学校運営協議会で意見をいただいている。
- 【成果と課題】
- ユネスコスクールであることを意識し、ふるさと学習やボランティア活動を継続的に行い、充実させることができた。
- 子どもたちがさらに主体的に活動を進めていけるようにする。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

- 学校で行った環境学習やふるさと学習、国際理解に関わる学習について、学校だよりやコミュニティスクールだより、家庭教育学級だより、学年通信で紹介した。
- ESD パスポートを活用したことにより、ボランティアの輪が広がった。そして、今、自分がしている活動が、環境を守ることやみんなの役に立つことにつながっているという自己有用感を味わうことができた。
- 子どもたちは地域に目を向ける機会がさらに多くなり、自分たちでできることを考え、自主的に行動する力が身に付いた。
- 学校だけではなく、地域の方にも ESD について知ってもらい、子どもたちと地域の方との間にさらなるつながりを深めていきたい。また、人と人とのつながりによって、豊かな人間力の育成とともに、学校と地域における ESD 活動をより活発にしていきたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）（200字程度） ※チェック事項 2-3 に対応

- 広幡小学校は、「コミュニティスクール」でもあるため、広幡ふるさとオリエンテーリングやピカリーン活動、ペットボトルの蓋の回収などの書く活動について、PTA、地域コミュニティと学校が連携をとって進めることができている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

特になし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒，教員，カリキュラム・教授法，学校経営，地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

○ふるさと学習や奉仕活動、海外への寄付活動などのユネスコスクールとしての活動に対して、保護者・地域から肯定的な協力が得られた。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

- 全校：広幡ふるさとオリエンテーリング・広幡音頭・ボランティア活動
- ・全校児童が縦割り班で地域をまわり、各学年のふるさと学習で学んだことをポイントで説明しながらオリエンテーリングを行う。
  - ・地域の方に踊りを教えていただき、広幡町民運動会で地域の方と一緒に踊る。
  - ・ESD パスポートを使って、ボランティアを広げていく。
  - ・ピカリーン活動を行い、地域の方と一緒に住んでいる地区を掃除する。
  - ・国際協力の継続
- 1 年生：広幡の自然となかよし
- ・学校周辺を探検し、地域の自然について調べまとめる。
  - ・地域の公民館春祭りに参加する。
- 2 年生：ぼく・わたしたちの町じまん
- ・学校周辺から校区全体に広げ、広幡地区の自然について調べる。
  - ・地域の伝統行事に参加する。
- 3 年生：ふるさと広幡
- ・地域にある公民館に出かけ、公民館のクラブ活動を行っている人との交流。
- 4 年生：広幡地域と水とのかかわり
- ・広幡地区の水の利用と現在の生活を調べる。
  - ・昔の水害が起こったときの様子について調べる。
- 5 年生：広幡の自然に学ぶ
- ・広幡地区に生息する絶滅危惧種「ハリヨ」について調べる。
  - ・保護者や地域の方への聴き取りを行い、昔の広幡地区の水にかかわる環境調査をする。
- 6 年生：ふるさとの偉人に学ぶ
- ・広幡の偉人「田中道麿」について調べる。
  - ・道麿に思いを寄せ短歌を書き、田中道麿法要で披露する。